



楽しく子育て!

～子育て支援コーナー通信～

第106号

発行日

2016年6月19日

毎月19日は、「かがわ育児の日」

第36回子育て支援コーナー企画展示

「ふえるといりな、好きなもの～親子で食育～」

が始まりました。

○期間：平成28年6月11日（土）～平成28年9月4日（日）



新しい本が 入りました。

() 内の数字は
棚の番号です

『コピーライターが教える
子どもを幸せにする名
づけのコツ』

清水 章充／著
学研プラス／刊

2016.5

(支援1-3)

『食物アレルギーのつき
あい方と安心レシピ』

海老澤 元宏／監修, 林
典子／栄養監修

ナツメ社

2016.5

(支援2-2)

『16万人の脳画像を見
てきた脳医学者が教え
る「賢い子」に育てる究
極のコツ』

瀧 靖之／著
文響社

2016.4

(支援3-3)

『親子で楽しむ手形
アート』

やまざき さちえ／著
日本文芸社

2016.5

(支援4-1)

毎月19日は「かがわ食育の日」、毎年6月は「かがわ食育月間」です。それにちなんで、子育て支援コーナーとYoung Generationコーナー、香川県教育委員会保健体育課のコラボで食育の展示を行っています。

バランスの良い食事は、子どもの健やかな成長にとって大切なものですが、好き嫌いのある子どもは少なくありません。特に、嫌いな料理の上位に魚料理や野菜料理があげられることが多いようです。

そこで、当コーナーでは、幼児から小学生のお子さんと保護者向けに、魚と野菜を中心に、子どもの好きな食べものが増えるきっかけとなることを願って、「食育の基本について分かる本」「魚・野菜のレシピ本」「魚・野菜に親しむ絵本、おはなし」などの食育に役立つ本・絵本、約200冊を展示・貸出しします。どうぞご利用ください!

子育て応援団を紹介します。 第10回

「西岡医院病児保育室 レインボーキッズ」②

前回に引き続き、高松市で病児保育事業を行っている「西岡医院病児保育室 レインボーキッズ」さんをご紹介します。

理事長 西岡敦子先生にインタビュー

Q1 病児保育を始めたきっかけは？

A1 1994年に開業した当時、「子どもの病気で仕事を休むとクビになる」と切実な悩みを抱えたお母さんが何人もいらっしゃいました。そんな時、小児科の空きベッドでお子さんを預かり、とても感謝されたことがありました。

その頃は、「小児科医が子育てに関わったり、病気の子を預かるのはおかしい」という批判がありましたが、私自身4人の子育てをしたので、「子育ては親、保護者だけでなく、みんなでもいいんじゃないか」という思いがありました。病児保育の必要性を行政にも訴えていたところ、高松市が14年前に「病児保育をやってみますか？」と声をかけてくれ、本格的に病児保育を開始しました。

Q2 病児保育で大切にしていることは？

A2 まず「子どもを安全に預かる」ことが一番大切。難病の子どももいるので、専門的な知識は必要です。ここには、「病児保育専門士（注）」が3名在籍しています。小児科においても、毎年勉強会を全員で行なっています。

子どもを支援すること。そのために、子どもを取り巻く多職種チームで情報を共有しています。同時にお母さん支援。「ここでいろんな相談をしてもいいんだよ」という話しやすい雰囲気大切にしています。病児保育には、子育て相談、子どもの支援、お母さんの支援、情報提供する機能（家庭での手当や病児保育について地域の幼稚園・保育所に広報する）などいろんな機能があります。それを社会に伝えていかないと、と思っています。

Q3 子育て中の方にメッセージをお願いします。

A3 子どもって本当に大変なんですよね。自分の時間も思いどおりにならなかったり、ちょっとした風邪が案外長引いて不安になったり。でも、子どもは大きな宝で、大きな喜びですから、心配しすぎないで、「私たちが、ここにいるよ」ということを知ってほしいです。なんでも、どんな小さなことでも相談してほしいですし、それをいつも伝えていきたいと思っています。



（注）病児保育専門士…全国病児保育協議会が認定する民間資格。保育士または看護師かつ病児・病後児保育施設に2年以上勤務経験があり、講習を受講し、レポート提出、口頭試験で合格した者。

「としょかんコンサート」を開催します！

無料です。
予約は不要です。

日時：7月2日（土）14：00～14：30（開場：13：30）

場所：図書館2階 視聴覚ホール 対象：幼児～小学生とその保護者

演奏：きんかんアンサンブル「ゆかいななかまたち」

子どもたちがよく知っている曲で、体を動かしたり、歌ったりして、のびのびと音楽を楽しみましょう！